

平成 28 年度第 2 回 宮城野区区民協働まちづくり事業評価委員会  
まちづくり活動助成事業報告 議事録

日 時：平成 29 年 2 月 8 日(水) 午後 6 時 00 分～  
場 所：宮城野区中央市民センター 第 1 会議室  
出席者：吉川委員長, 有坂副委員長, 庄司副委員長,  
葛西委員, 佐藤委員, 平塚委員

---

1 開会  
2 事業報告及び質疑応答

① 平日フェス実行委員会

事業名：平日夕涼みフェス（2 年目）

< 質疑応答 >

・関わっていただいたスタッフ・ボランティア等間の連携はうまくいったのか？

→開催前に説明会を開き、事前に一同に顔を合わせる機会を設けた。そこで、それぞれの立場から意見を伺い、話を詰めていった。当日は、インカム（トランシーバー）を使用して、起こった問題に対して臨機応変に対応し、けが人も出さずに連携して実施できた。

・アンケート結果の反省でも、「10～20 代の参加が少なかった」とあった。前日に高砂小にてバルーン係留したにも関わらず、小学生の参加が少なかったのはどう分析しているか。

→小学校にはチラシを撒くことができ、小学生は比較的多く参加して頂けたのではないかと思っている。しかし、時間の長さや暑さからなのか、中学生・高校生の参加が少なかった。工夫して参加増やせるようにしたいと思っている。

→確かに会場は暑かったので、あまり長居できなかつた。長居できる工夫は必要かと思う。

・昨年の報告の際に告知（広報）の課題が挙がっていたが、アンケートを見ると、やはり今年も運営者・出展者などからの口コミの力が大きかった様子。今後の告知方法で考えていることはあるか？

→今年は宮城野区役所・中央市民センターにポスターを貼ったり、河北新報にも協力いただき 4000 部ほど折込みしてその成果は見られた。ラジオも何社か協力いただき、前回より告知は意識して力を入れた。まだ 2 回目でなかなか成果が出なかつた。

・協賛や自己資金で努力したとあったが、どんな方法で・どれくらいの人からからの協賛だったのか？

→協賛は個人 13・団体 8 件。スポンサー枠 30,000 円で募った。内容は、ロゴのプログラム掲載、facebook ページに大きく掲載、紹介したいことがあれば協力するもので、2 件のスポンサー枠を得られた。その他にも、当日プログラムにスポンサー掲載欄を設けたり、地元企業に協力いただきオリジナル T シャツやタオルの販売など工夫を凝らした。

② 東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」

事業名：仙台駅東口ガイド推進プロジェクト（1 年目）

< 質疑応答 >

・連合町内会や東口交流センターから活動の様子を聞いても、素晴らしい活動をされていると感じていた。一方、ガイドツアーで1回に70~80名集まるという話を聞いて安全上危険と感じた。人数制限・定員化などできないのか？もしくは何グループに分けるかなど工夫はできないのか？

→同じように感じている。今、毎月28日開催の定例のガイドツアーは、予約いらずで参加できるものでやっているのだから、参加人数によってグループ分けをして対応しながら模索している。良い方法があれば、ぜひ教えてほしい。

・東口には駅東交流センターなど公的な施設があり、活動拠点を置くと運営しやすいのではないかと思う。

→同じように感じている。事務所を持たない活動の苦勞を感じている。駅東交流センターの運営メンバーの一員にさせていただき、協力して活動できればと考えている。29年度の課題の一つとして取り組んでいきたい。

・アンケートの中に、「マイクがないのにガイド詳しい」「人数が多い」などあったが、ガイドする際に問題がある場合はあるのか？

→多人数にもなると、ガイドの前方と後方で時間差が大きく、拡声器を使用しても声が届かないという問題がある。グループを10~20人制にして対応するには、質の良い・効率の良いガイド養成講座を行いガイドの拡充をはかりたい。また養成講座を受けた参加者が、もっと我々と一緒に活動していくことができる工夫の必要性を感じている。

・アンケートを見ると好評の声が多い。

広報に定員超えた場合は抽選と記載あるが、抽選になったことはあるのか？日程を増やして募集する策もあると思う。

→コースによっては定員超えるコースもあるが、できるだけ予約された方みなが参加できるよう、会場は窮屈になるが定員を超えて対応している。抽選をしたケースは今のところないが、設定日増やす方法今後検討したい。

### ③ いわきり防災エンパワーメント

事業名：いわきり防災かるた（3年目）

<質疑応答>

・昨年大きいかるたを見せていただき、課題の商品化を叶えてくれ素晴らしいと思う。

かるたをした子どもたちの反応、またかるた100セットの配置場所と別途購入できるのか聞かせてほしい。

→1月にかるた大会を実施した。軽いケガをする子どもが出るほど、大いに盛り上がった。1~4位には賞状、参加者全員にメダル・区民生活課より防災グッズ・PTAからの景品プレゼントし喜んでもらった。制作したかるたの配置場所は市民センター・小学校・老人ホーム・児童館など。イズミティ21で開催される防災フォーラムでは紹介スペースも確保してもらえた。同じような防災の活動されている団体がいれば提供したいと考えている。

→大人向けの防災ゲームで「クロスゲーム」があるが、一緒に企画で子供たちにはこの「かるた」は利用できるのでは。色々な組み合わせで防災をこれからも伝えてほしい。

・岩切=防災のイメージが定着しつつある。宮城野区・仙台市を代表して「防災」について発信していける存在になってほしい。防災教育をするにあたって、他の地域にすすめることができる

ことはあるか。

→なかなか他の地域の町内会では、「防災」について考える機会がないとの声がある。生協の協力のもと、「防災」を伝える活動継続していきたい。

・岩切地区は小さい子どもが多いと感じている。今小さい子どもたちが大きくなってきたときにも、何らかの方法で「防災」への意識を絶やさないう活動継続して欲しいと思う。

#### ④ 鶴ヶ谷ひょうたん沼楽校

事業名：ひょうたん沼楽校 自然教室（3年目）

<質疑応答>

・子ども向けに「地域交流教室」を実施され素晴らしいと感じたが、実際にやってみてどう感じているのか。

→今までひょうたん沼の観察がメインだったが、子供を巻き込めてうれしく感じた。この委員会で、「鶴ヶ谷の子供たちがひょうたん沼に誇りを持てるように、自慢話ができるようにしてください」という昨年頂いた言葉を実現できて、とても満足している。

・これからの人材確保への課題はどうか。最近の人数増減含め聞きたい。

→今メンバーは10名。1年目に1人増えてそこからは変化ない。まだPRが足りていない。学校へのつながりや、新聞への掲載で知名度や評価は上がってきていると思うが、仲間を増やすという努力は足りていないので、力入れていきたい。

・3年目で、門が開きづらい小学校とつながりが出来たのは素晴らしいことで、今後も継続して貢献してほしい。

→限られた資金の中で、どう地域と密着してつながっていくかに力を入れて、細く長く活動を続けていきたい。

・助成金で購入したルーペなど備品の管理は、今後の活動継続のために、備品へのナンバリングや棚卸しなど定期的なチェックをして徹底してほしい。

→すべての備品に名札をつけて、代表の自宅で保管している。集会所等での保管はやはり難しい。

### 3 交流会

・活動助成団体と評価委員・他参加者が2グループに分かれ、お互いの情報交換や活動に関する相談などをフリートーク形式で実施した。